

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

秘

第五十七回技術會議

第十部第二十一回會議議事要旨

一、審議事項 製品積出設備改良に關する件

一、開催 昭和七年二月六日

一、出席者 別紙記載

一、議事

イ、技監 本所製品は現在「幹取り」により汽船に積込むこの方法必ずしも經濟的なりとは斷じ難し、これに關し土木部より改良案の提出あり、茲に提案者の説明及び各員の忌憚なき質議を求む。

ロ、土木部長 當部に於て構内線路の整地のため運輸課と協力し貨車の積卸状況、線路竝に貨車の荷重負擔力を調査し線路、貨車共に現状以上の荷重に堪へ得るを知りたるが同時に岸壁に於ける製品積出法の改良に考へ及べり、

牧山製品積出場は僅かなれども地面に段階ありて「渡り線」の敷設

不可能なるのみならず起重機にも改造すべき箇所ある故この際地均
しと共に起重機下に線路を増加し起重機に改造を加へて長尺物の取
扱ひを自由ならしめ同時に貨車も大型として製品積込は貨車による
を原則とし漸次「群取り」を廢せんとする案なり、本案の如く貨車
を改造又は新造して大型とすれば等距離間に多量の製品を置き得る
便あり尙軌條等の長尺物は海岸近くの線に入れて「デリッキ」を用
ひて積込ましめ工場と本船間との連絡は群の場合と同様に四五日前
より貨車積として整理し置くものとす。

本案は「クレーン」能力一日一千噸を基準とし線路の増設、貨車の
改造を骨子として作成せられたるものなり。

ハ、技監 「クレーン」基礎地盤に段階をつくりし事情竝に二〇米突
軌條の積込方法及び起重機能力一日一千噸としたる理由如何。

ニ、第二土木課長 起重機納入後架空線の位置に相異なるを知り止む
を得ず地盤を高めたるもの、如く聞けり。

ホ、運輸課長 二〇米突軌條積込は貨車を船側に引き入れ「デリツキ」によりて甲板積となす外方法なし、

ヘ、田中書記 起重機能力は一回に一〇噸を積込みこれに一〇分を要するとし二交替作業時間（十六時間）の積込量を計算せり、

ト、運輸課長 現在に於ても貨車一臺に各間壁向の製品を積込むため

その仕分け困難なるが貨車を大型となす程この傾向は増加すべし、

この場合この選別の方法如何、

チ、土木部長 操車線に引入れたる貨車上に於て之を行ふ、線路は四線を有効に使用し得るが故に一臺五〇噸積としても一〇米突の間は二〇〇噸を収め得べく弊より殆ひたる時と同等面積にて取扱はるべし、

リ、第二土木課長 豫ねて提出し置ける「枝光繫船壁製品積出設備改良案」によりて御承知の如く起重機四臺は各二交替作業の時一日一千噸の能力ありとし汽船は二隻宛何役し毎日二千噸を積込むを基準

とせり、貨車は各工場當り毎日一〇〇馬の積出をなすものとして所要敷、積取馬数を調査し一〇〇馬貨車、六〇馬貨車を以て本船積込準備用として使用するを有利なりとの結論に達したり。

製品積出總馬数の四割は當日工場より運搬し六割を貯積とし四五日前より準備し置くを現状とするが故に本案に於ても前記六割に相當する製品は貨車積のまゝ、稼め換車場に留め置くものとす。

この場合貨車上に於ける製品の「仕分け」は弊による時より困難なるべきも其容易なるものより着手しつゝ仕分方法に工夫改善を加ふれば漸次貯全廠の域に到達し得べし、仕分けを各工場に於て行ふ事も一案ならん。

又、日中書記 工場は製品整理に忙しく更に仕分けを課するは無理なるべし。

ル、運輸課長 同感なり、従つて「仕分け」を何處にて行ふか、問題にして岸壁起重機を用ひんかそれ丈け積出能力を減殺すべし。

ヲ、工作部長 現在に於ても工場にて概略の「仕分け」は實行中にあらずや、殊に仕分けを要する製品はその数量少きが如し。

ワ、條調部長 数量少くとも仕分け數多ければ「クレーン」の作業時間大となり工場としては支障多し。

カ、田中書記 貨車が大型とならば現在以上各間屋向の製品が一貨車に積込まるゝ傾向あるべく殊に貨車上の「仕分け」は弊上のそれより困難なる事實あり。

ヨ、工作部長 厚板、軌條、緑材、鐵力板の如く相當量纏まれるものを大型貨車に積込むことゝすれば實際上仕分け困難なるは製品總量の一、二割なるべくこの場合弊と雖も自由に入換へを行ひて仕分け難き事貨車と大差なかるべし。

タ、第二土木課長 特に仕分け困難なるものは當分弊によるも宜しかるべく容易なるものより先づ實行し漸次この方法に熟練するを待ちたし。

レ、技監 販賣部に於て本案の實行を決意し各工場亦これを援助するにあらずんば實現不可能なり。

ソ、田中書記 鋼材の本船積込みは晝間八十時間一のみに限らるゝに拘はらず起重機能力二千吨は二交替作業として算定せられたり、この點に關し意見を承りたし。

ツ、工作部長 汽船會社の船の「デリツキ」を使用せず本所の起重機を用ひての作業ならば二交替作業も差支へなかるべくこれが爲めの保険料増加率は僅少なるべし。

ネ、條鋼部長 起重機能力は實地に調査しては如何。

ナ、第二土木課長 従來この起重機を用ひ月當り千吨以上を積込みつつあり。

ラ、運輸課長 然し選別の困難及び本船積は弊積より時間を要する事等は起重機能力を従來より低下せしむべし。

ム、工作部長 線路の整理、起重機の修理に着手し貨車の補修、製作

は試験的の程度にて進みまし。

ウ、技監 製品は貨車より直接積込むを最善の策となすや、廣南丸の如きの甲板を取拂ひ現在の群換りに使用しては如何、其のまゝ、曳航するも一案ならずや。

キ、工作部長 「仕分け」の困難なる程度は大差なかるべくこれを曳航するは航海日数を増加すべし。

ノ、田中書記 數年前「仕分け」を大阪にて行はんとする議も起りたれど經費大なりしたため消滅したり。

オ、運輸課長 三隻以上入港の場合「群取り」に使用する起重機如何ク、第二土木課長 中央船渠北方突堤上の起重機をこれに當てたし。

ヤ、技監 洞岡に於ける荷揚設備完成すれば現在の海岸鑛石起重機の一部は流用し得らる、尚問題となれる本船積込二交替作業の可否に就きては一應船會社に問合すべし。

マ、運輸課長 本案は本船直送を基準としての立案なれどこの外群の

備送るもの製品總量の約二割、倉入れするもの二十數萬噸あることも考慮せられたし。

ケ、綿貫技師 本案は本船直送の分に就いてのみ考慮したるものにして其の他には觸れず。

フ、運輸課長 現在の貨車は三十噸積を最大としその自己重量四〇噸餘なるが故に一〇〇噸積貨車を使用するためには秤量機的能力機關車重量及び「ホイールロード」の釣合等慎重に考慮すべき諸點あり。

コ、工作部長 秤量を要するものは線材のみにして機關車自己重量の點は速度を制限すれば支障なかるべく「ホイールロード」は補強せば可なりと思惟するも一〇〇噸積貨車を用ひる意にあらず、差し當り五〇―六〇噸貨車を使用せんとす。

エ、技監 次回迄に各目一層の研究を進められたし。

出席者（十名）

野田 技監 井村 技術課長

山縣 工作部長 進來 第二土木課長 小城 計量課長 綿貫 技師

景山 條綱部長

中原 運轉課長

高木 販賣部第三課長 田中 書記